《俳人蕪村》

图书基本信息

书名：《俳人蕪村》

13位ISBN编号：9784061976849

10位ISBN编号：4061976842

出版社：講談社文芸文庫

作者：正岡子規

页数：194

版权说明：本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介以及在线试读，请支持正版图书。

更多资源请访问：www.tushu000.com

《俳人蕪村》

内容概要

江戸の俳人与謝蕪村の魅力を再発見した正岡子規の名俳論。明治になるまで芭蕉の陰で忘れられていた蕪村の俳人としての高い評価を決定し、近代芸術家としての蕪村像を後代に伝える。併せて、「蕪村と几董」「蕪村風十二ケ月」「行脚俳人芭蕉」「一茶の俳句を評す」等の江戸期俳句に関する評論を纏め、巻末資料に、当時の漫画「蕪村寺再建縁起」を収録する。

《俳人蕪村》

章节试读

1、《俳人蕪村》的笔记-第1页

与謝蕪村は俳句より画をよくしられているが、実際芭蕉に匹敵する存在である。
美に二種類があって、積極的とは意匠の壮大、雄渾、活発、消極的とは意匠の古雅、幽玄、沈静。概していえば、東洋の美術文学は消極的美に傾き、西洋のは積極的に傾く。時といえば、上世には消極的な美が多く後世には積極的な美が多い。芭蕉とその弟子は消極的な美を重んじていて、積極的なのを卑俗なものとする。蕪村は積極的美において自得する。一年に四季あって、春夏は積極、秋冬は消極である。蕪村最も夏好み、夏の句が一番多い。
積極な美と消極な美にたいして、客観な美と主観な美も要素になる。文学史からみれば、上世に多くは主観で、後世にだんだん客観になっていった。主観というのは、例えば輪郭ばかりを書いて、他の部分を主観の想像力に任せるにたいし、客観は細々に書いて、画面感が強い。
天然は簡単だけど、人事が複雑で、だから極まりなく変化している人事を一句に凝縮するのは難中の難である。芭蕉は人事を詠うのは多いけれど、自分生涯を関するに止まった。しかし、蕪村が書いたのは多種多様である。

《俳人蕪村》

版权说明

本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问:www.tushu000.com